Ishikawa Sunrise Industries Creation Organization
新産業創出のための総合的支援情報誌「イシコ」

ISICO

あなたのビジネスをインターネット上でサポート
DGnet URL ● http://www.isico.or.jp

Vol 24 2005 SUMMER



●企業トップの素顔に迫る
トップの選択
(株)オハラ　代表取締役社長　小原　繁

●産学官連携の最前線
トライアングル
(株)ナナオ

●ビジネス・フロンティアに進路を取れ！
BUSINESS FRONTIER
(株)西野製作所

●創造的企業ルポ
21世紀のチャレンジ
(株)アイ・ツー
北陸大同産業(株)

●ネット販売による販路開拓
ネット進出レポート
ホリ写真館
オモチャのとらや

●支援施設から羽ばたけ！
入居企業ファイル
(株)COM-ONE
D.Design My

イシコ・トピックス
FINANCE
ISICOスタッフ紹介
インフォメーション・テーブル

表紙撮影/黒川博司

巻頭特集 | ISICOが力強くサポートします！

きっと実現する企業の未来形

小動物用の磁場計測装置に使われるSQUIDチップを組み込んだウェハー（直径約7.5cm）。
詳しくは4ページをご覧ください。

巻頭特集

きっと実現する企

ISICOが力強くサポートします！

「クラスター」「産業革新戦略」「県立大学」「人材確保」…機能も充実して7年目がスタート

平成11年4月にスタートしたISICOは、今年で7年目を迎えました。ベンチャー支援や産学官連携のコーディネートといった発足当初の役割に加え、販路開拓や再生支援、若者の就業支援など、年々機能の充実を図り、中小企業のための総合的なサポートセンターとして、全国でも先進地的な取り組みを展開しています。スタッフも充実し、107人となりました。企業のさまざまなニーズにきめ細かく対応しますので、ぜひご利用ください。



理事長インタビュー／谷本正憲（石川県知事）

ISICOが果たす役割やこれからのビジョンについて、当財団の理事長でもある谷本正憲知事に聞きました。

――県内企業のポテンシャルとISICOの役割についてどのように考えているか。

ニッチトップ企業が全国で3番目に多いことからも分かるように、石川県には、技術開発に意欲的で進取の気性に富んだ企業が多い。そういったベンチャーを生み出す土壌をより豊かにして、企業の潜在能力を引き出していくことがISICOの使命だと考えている。

――企業の潜在能力を引き出すためにISICOではどんな取り組みをしているのか。

その手段の一つが産学官連携であり、ISICOでは企業と大学、公設試験研究機関を有機的に結びつけることで、石川発の新技術、新商品の開発を目指している。

例えば昨年には、石川の企業や大学が共同で認知症の早期発見のための診断装置を開発するプロジェクト「石川ハイテク・センシング・クラスター」（※1）をスタートさせた。5年間で25億円が投じられるビッグプロジェクトであり、成功すれば世界に通用する画期的な成果が生まれる。

業の未来形

次代を担う経営人材を育成する「石川経営天書塾」（※6）などを今年から手がけ、産業人材の確保と育成を後押ししていく。

さらに、今年4月には「石川県農業短期大学」を改組して、4年生の「石川県立大学」（※2）が誕生した。バイオ関連を中心に日本でも有数の教授陣がそろっているので、産学連携の新たな拠点としての役割を果していく。

一方で、石川らしいベンチャー企業を育てていくということに関しては、昨年、能美市のいしかわサイエンスパーク内に「いしかわフロンティアラボ」（※3）を整備した。ここは県が施設を整備し、家賃の30%を負担するなど、資金力の乏しいベンチャー企業の初期投資をできるだけ軽減して、研究開発に注力してもらうための受け皿であり、現在までに11社が進出している。ここから、石川の次代を担うニッチトップ企業が育ってくれることを期待している。

――「人口減少社会」の到来が秒読み段階に入った。企業の発展に不可欠な産業人材を確保するための手だてはあるか。

これからの人口減少社会の中で、人材の裾野をどう広げていくのか、人材の質をどう高めていくのかということは、企業が活力を維持し続けるための大きな課題だ。若者の就職を支援する「ジョブカフェ」（※4）は今年で2年目を迎えるが、ISICOが運営することで、企業側のニーズをしっかり把握し、それにあった人材を確保するなど、ハローワークとの連携による一歩踏み込んだ支援を可能にしている。

このほか、製造現場に必要な中核人材を育成できるよう企業と大学が連携して新たな人材育成システムを構築する「産学連携製造中核人材育成事業」（※5）、

――年を追うごとに、ISICOの機能も強化されてきた。これからのISICOの可能性、ビジョンをどのように考えるか。

ISICOが独自に考えて何かを行うというより、企業のニーズにどう応えていくか、そこにISICOの存在意義があると考えている。

例えば、経営状況が悪化した企業を専門家チームがサポートする「中小企業再生支援室」は、県内の銀行の破綻によって資金繰りが悪化した多くの企業をサポートした。販路開拓事業では、巨大な市場である首都圏をターゲットに受注懇談会、商談会、展示会を実施している。このように石川の企業の実情にマッチしたサービスをこれからも提供していきたい。

また、石川県では県内産業を活性化させるための新たな10カ年計画として「石川県産業革新戦略」（※7）を策定した。この中では、これまで不十分だった一次産業、二次産業、三次産業の壁を超えた連携が県内産業の活性化に不可欠としており、ISICOが産業間の横の連携を橋渡しできればと考えている。

――県内企業にメッセージを。

ISICOでは、産学官の研究開発から経営支援、事業化、販路開拓に至るまで、企業のさまざまなニーズにきめ細かく対応している。職員一同、全力を尽くすので、ささいなことでも気軽に相談してほしい。



（※1）ISICOに本部をおき、認知症の早期診断システム構築を目的に、2年間の試行を経て16年度から事業がスタートした。5年間で約675億円の売上規模が見込まれる産業の創出、15社のベンチャー企業創出、120件の特許出願などを目指す。→4ページに関連情報

（※2）生物資源環境学部に「生産科学科」「環境科学科」「食品科学科」の3学科を設置する。ハードの充実はもちろん、全国的な視野で選考した優秀な教授陣が「バイオと環境」の時代の専門家を育成する。→4ページに関連情報

（※3）新製品の研究開発等、創造的な活動を行う企業等がローコストで利用できる賃貸施設。→5ページに関連情報

（※4）34歳までのフリーターや無職の若者、大学生などを対象に、気軽に就職相談でき、就業のための人材育成を支援する施設。→6ページに関連情報

（※5）製造現場の中核人材の育成・強化へ向け、必要な知識・スキルの体系化、教育プログラムの開発、製造現場とベテラン人材を活用した実践的な人材育成から、新たな人材育成システムを構築するため、県内企業の協力、連携により大学が新しいカリキュラムを開発する事業。

（※6）次世代の地域産業を牽引するニューリーダーを育てるビジネススクール。ものづくり産業の若手経営者を対象に12回の講義を予定している。

（※7）県内産業を活性化させるための10カ年計画。複数の産業の連携による新産業の創出など、中長期的な戦略を提案している。

企業の未来を支援するサポートプログラム

産学官連携支援

オンリーワンの研究開発を目指して

■大学との連携をコーディネート

21世紀をリードする新産業として注目が集まるバイオテクノロジーやナノテクノロジー。こういった専門性の高い分野で技術開発や商品開発を手がける場合、多くの研究シーズを抱える大学と連携することが事業化の近道です。

とはいえ、大学との共同研究が初めての企業にとっては敷居が高く感じるもの。ISICO では、産学官連携に関して豊富なノウハウを持ったアドバイザーが相談、指導に当たっており、金沢大学や北陸先端科学技術大学院大学、金沢工業大学などの大学から、企業の問題解決に最適な研究者をコーディネートしています。



石川県立大学

さらに、今年4月には、「石川県農業短期大学」が改編され、4年制の「石川県立大学」として生まれ変わりました。県立大学には、バイオ関連の最先端の解析機器や日本でも有数の研究スタッフが結集しています。植物・微生物の酵素や遺伝子を利用した付加価値の高い医薬品、食品開発に大きな力を発揮します。

また、今年度からはISICOと各大学がタイアップして、「大学連携セミナー」を開催。各大学の研究シーズを紹介すると同時に、事業化に向けたアドバイスを行います。

各大学に研究開発や技術相談を持ちかけたい企業には、ISICOが力強いサポーターとなります。まず、ご相談ください。

農林水産業の高付加価値化を後押し

■農工連携の支援体制を強化

ISICOでは、他の産地とは違う付加価値の高い商品づくりや新たな流通ルートの確立、加工や販売までを手がける総合産業化などに取り組む意欲的な農林水産業者を支援しています。今年度は豊富なノウハウを持った専任のコーディネーターを増員。農業の生産技術向上などの相談に加え、商品開発、販路開拓などもバックアップしています。

また、マーケティングやマネジメントを担当するマーケティングアドバイザーが東京に常駐し、国内人口の約3割が集中する首都圏から吸い上げたニーズを、商品開発や販売に役立ててもらっています。

特許活用でスピードアップ、コストダウンを

■特許流通の「？」にアドバイス

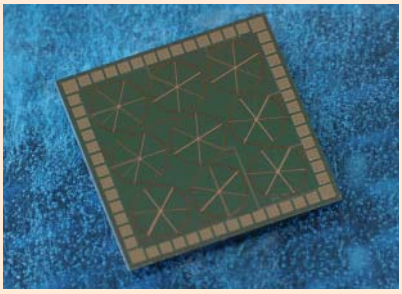
現在、特許庁に登録されている特許件数は約4,000万件に上ります。しかし、そのうちの約2/3は未利用特許と呼ばれ、具体的に商品化されていなかったり、技術として有効利用されていないのが現状です。そういった眠れる特許を上手に活用することで、研究開発コストの削減やスピードアップが期待できます。また、特許情報は最先端技術の宝庫と言え、技術分野でのヒントを得る手段としても効果的です。

ISICO 特許流通支援センターでは、特許の流通や検索等に関する専門知識を持ったスタッフと専用端末を配置。企業や大学、研究機関などが持っている取引可能な特許について情報提供するほか、企業が特許流通の契約を結びたい場合はそのあっせんを行っています。

小動物用の脳磁計など実用化へ

■知的クラスター創成事業

ISICOに本部を置く知的クラスター創成事業「石川ハイテク・センシング・クラスター」は今年で2年目を迎えました。これは、金沢大学や北陸先端科学技術大学院大学、金沢工業大学などの研究機関と企業が連携して認知症の早期診断支援システム・予防型社会システムの構築を目指す取り組みで、脳健診のためのバイオセンサ技術の確立や脳磁計測システムの開発などが順調に進んでいます。



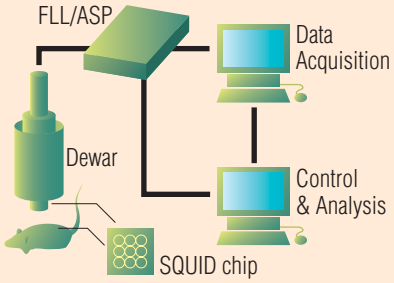
脳磁場を計測するSQUIDチップ

さらに、今年5月からは、今回のプロジェクトの基礎技術を応用展開し、実用化する取り組みとして、「小動物用生体磁場計測装置の開発」が追加事業に採択され、研究開発がスタートしました。

この事業では、人間のために開発した脳磁計の基礎技術を応用し、実験

用マウスなどの心臓や脳の活動から発生する微弱な磁場を測定する検査装置を開発します。

現在、脳や心臓の疾患について研究したり、治療薬を開発するにあたって、脳波や心電図をとる場合には、実験用のマウスを手術して電極を埋め込んだり、解剖して効果を確かめるなど、熟練した技術者とたくさんの高価なマウスを必要としています。



小動物用生体磁場計測装置イメージ

今回の事業によって小動物用の脳磁計と心磁計が実用化されれば、マウスが筒状の通路を通過しただけで脳や心臓の磁場を測定することも可能となり、精度の高いデータを短時間で得ることができるようになります。人間の脳から発せられる微弱な磁場（地磁気の1/10億）に比べて、マウスの脳の磁場はさらに1/100ほど微弱であり、センサの高精度化、データ処理技術の高度化などを進めていきます。

研究情報とのマッチングを目指して

■産業界のニーズ調査

県内産業の技術レベル向上に役立てるため、ISICOでは県工業試験場と連携して、技術的な課題や必要としている技術など県内企業のニーズを掘り起こす調査を実施します。調査方法はヒアリング調査とアンケート調査の二通りです。アンケート調査結果は、データベース化され、大学や試験研究機関のシーズ情報とのマッチングにより、企業と大学の研究者を橋渡しします。産学官の連携による製品開発などのプロジェクトは、国や県などの公募プロジェクトに採用されれば、助成金が出る場合もあります。お手数をおかけしますが、調査の際には、「新製品のアイデアはあるが、開発に必要な技術を探している」など、課題や要望などもぜひ具体的にお聞かせください。

快適な研究開発環境を提供

■いしかわサイエンスパーク

「いしかわサイエンスパーク」（能美市）は、先端科学技術分野の研究では国内有数の実績を誇る北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）に隣接して企業の研究所などが立地し、石川県の産学官連携の中核的な役割を担っています。

ISICOでは、ここにサイエンスパークオフィスを設け、JAISTやパーク内の各施設に関する情報提供や研究シーズの掘り起こし、企業とのマッチングをお手伝いしています。

また、研究シーズを芽吹かせ、商品化や産業化をスムーズに進めるために、低料金で利用できるインキュベート施設「いしかわクリエイトラボ」を設置。創業間もない、あるいは企業規模が小さいために独自の事務所・研究室が持てない創造的企業を支援しています。

さらに、企業ごとにセミオーダー方式で建設する賃貸型研究開発棟「いしかわフロンティアラボ」を整備し、事業化や研究スペース確保をバックアップしています。


いしかわサイエンスパーク

新たな次世代型企業の発掘に向けて

■ISICOクラブ発足／企業の情報収集

ISICOでは今年7月、企業間の人的ネットワークの構築を目的に、ベンチャー企業や新分野進出に取り組む企業などからなるISICOクラブを立ち上げました。また、次世代を担うような優良なベンチャー企業の発掘と支援のため、県内の商工会議所や金融機関などを訪問し、企業情報の収集などに取り組んでいます。今後、こうした情報を基に、企業間の新たな連携や新技術の確立など、企業の成長に向けてフォローアップ、サポートしていきます。

ベンチャー支援

人材確保・育成支援

8月8日(月)に経営者、人事担当者向けのセミナー開催

■ジョブカフェ石川

若者たちの的確な仕事選びと就職活動をサポートする「ジョブカフェ石川」。今年6月までに約30,000人の利用があり、このうち1,912人が就職しています。



ジョブカフェ石川

7月30日（土）から8月8日（月）にかけては開設1周年記念事業として「チャレンジサマーフェスタ2005」と題し、基調講演や就職活動ゼミなどを開催します。8月8日（月）には、企業の経営者や人事・採用担当者を対象に「“人財”戦略セミナー」を開きます。若手人材の募集・採用から定着、次世代リーダーとしての育成まで、県内・県外企業のさまざまな取り組みを紹介します。

このほか、CADやコンピュータプログラミングなどの技術研修と、そういった技術を必要とする県内企業へのインターンシップを組み合わせた「ものづくりカレッジ」などを通して、企業と若者の出会いの場を増やしていきます。

“人財”戦略セミナー

「あなたの会社の人材が10倍輝く方法」

8/8(月)

日程・内容

■15:00～16:00
講演 「こんなにある!
若手人材活用の実践アイデア」
講師 原 正紀氏
（ジョブカフェ・サポートセンター代表）

■16:00～16:15
ジョブカフェ石川および
ヤングハローワークからのご案内

■16:15～17:15
公開インタビュー
「徹底解剖!成長企業の人材戦略」
ゲスト 木下孝治氏
（(株)エムアンドケイ代表取締役社長）
石塚秀俊氏
（(株)ガリバーインターナショナル人財開発チーム　チームリーダー）

会　場
石川県若者しごと情報館
ジョブカフェ石川　トライアル室



若者の就職活動を支援するセミナー

県内企業に対する発注企業を開拓

■受発注のあっせん

県内企業の経営の安定、新規受注の確保のため、全国の大手・中堅発注企業への訪問により受発注情報を収集し、引合案件などの情報提供、受発注あっせんを無料で行っています。

県内企業のコア技術や得意とする加工内容などの企業情報を受注企業名簿、ホームページ（石川県バーチャル工業団地）および展示会の開催などで広く情報提供し、新規受注機会の拡大も図っています。

また、東京、大阪、愛知などの都市圏で、県外大手・中堅発注企業の発注担当部・課長を招いた「受注開拓懇談会」を開催し、県内企業との受発注に関する情報交換、受注機会の拡大を推進しています。



県内企業の設備や技術力を紹介する冊子

首都圏に向けて新製品をアピール

■ISHI-BRAマーケットプレイス

ISICOでは、石川ブランドに代表されるような新製品を意欲的に開発している企業のために、販路開拓のアドバイスや新規取引先への紹介など、新製品の営業活動をサポートしています。

特に巨大マーケットの首都圏に向けては、県内企業の優れた商品をPRするため、毎年、東京都内で「ISHI-BRAマーケットプレイス」を開催しています。これは、大手百貨店や小売店、商社のバイヤーおよび商品開発担当者を対象にした展示・商談会で、県内中小企業が開発した生活用品や加工食品の販路開拓を目指します。首都圏への売り込みはもちろん、商品やパッケージなどについて、消費者をよく知るバイヤーから直接アドバイスを受ける絶好の機会にもなっています。

IT先進国のベンチャー企業をパートナーに

■韓国とのビジネス交流が活発化

ISICOでは、県内企業のビジネスチャンス拡大を目指して、IT産業で急成長している韓国と交流を進めています。中でも、人口約260万人を抱える韓国第3の都市・大邱（てぐ）市の（財）大邱デジタル産業振興院との交流では、これまでeラーニング用の教育ソフトを手がける韓国企業な

経営支援

企業が抱える さまざまな問題を解決へ

■専門家派遣事業

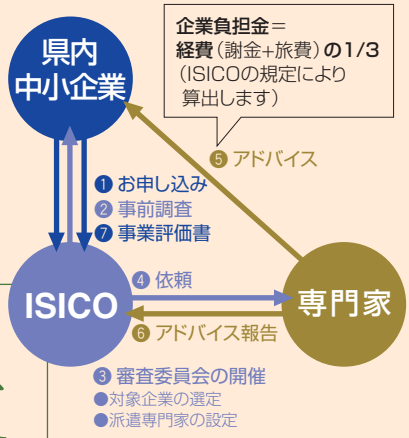
日ごろの経営や技術・商品開発には、問題点や困りごとがつきものです。そういったさまざまな課題の解決を図るため、ISICOではその目的に応じて専門家を派遣し、具体的・実践的なアドバイスを行っています。

企業側の負担額は謝礼及び必要経費の1/3で、ご希望の専門家を指定することもできます。プロのアドバイザーが豊富な知識とノウハウを活用、あなたの企業のブレーンとなります。

●経営革新支援コンサルティング
経営課題の解決のために、専門家を継続的に派遣します。

●商業アドバイザー
小売業及び卸売業又はサービス業の経営相談などに専門家を派遣します。

●ベンチャー支援コンサルティング
事業化支援委員会の選定企業、創造法及び経営革新支援法認定企業、創業間もないなど経営基盤の強化が必要な企業に専門家を派遣します。



専門家派遣事業のイメージ図

経営状況が悪化した企業を集中サポート

■中小企業再生支援室

深刻な経営上の問題を抱え、このままでは企業の将来に不安があるが意欲を持って新しい企業づくりに取り組もうとする中小企業を対象に、経営の立て直しをサポートするため、ISICOでは「中小企業再生支援室」を設けて支援に当たっています。

支援室には、金融機関出身者や中小企業診断士などの資格を持つ専任アドバイザーを配置。中小企業からの相談に基づき、再生の可能性を見極めます。

再生可能と判断した企業に対しては、公認会計士や弁護士、経営コンサルタントなどからなる支援チームを結成し、適切なアドバイスや指導、経営改善計画の策定支援、関係金融機関との調整などを通して、経営の健全化を図ります。

受注・販路開拓支援

どが、県内企業との商談会やe-messeへの出展などを通して、韓国の最新技術やサービスを紹介しています。


韓国企業との商談会の様子

また、石川県内のIT関連企業も、大邱市で行われたデジタル・コンテンツの展示会「DENPO」への参加や視察・商談会を通して、自社の技術をアピールするなど、ビジネスマッチングに取り組んでいます。

ISICOでは今後も韓国の企業や支援機関との交流を進め、技術交流や人材交流に結びつけたいと考えています。

ネット販売のノウハウを伝授

■お店ばたけ ISHIKAWA

ISICOでは、ネット販売に取り組む石川県の意欲ある店舗を支援するため、バーチャルモール「お店ばたけ ISHIKAWA」を開設しています。バーチャルモールに出店した店舗には、出店者の商品を紹介する「おすすめの逸品！」、出店者の素顔をクローズアップする「今月のお店」、出店者による「週刊ウンチク」などのコンテンツで広くPRします。ほかにも、メールマガジンによる情報提供やネット販売で役立つセミナーを開催するなど、魅力づくりに努めています。興味のある方は、ぜひのぞいてみてください。



http://www.omisebatake-isico.com/

業界を問わず淘汰の波が本格化するこれからの時代、経営者には逆境に負けない力強さが必要だ。バイタリティーあふれる企業トップの素顔に迫り、経営哲学や新たな一手を聞いた。

SELECTION.3

土俵の真ん中で勝負へ

小原 繁

代表取締役社長

(株)オハラ
金沢市柳橋町甲14−1
TEL 076-288-6572
http://www.ohr.co.jp/
http://www.4smiles.jp

とりあえず動いてみる

「土俵の真ん中で相撲をとる」。この言葉は、小原繁社長が師と仰ぐ京セラ(株)創業者、稲盛和夫氏の経営哲学の一つである。しかし、自身の経営については「とりあえず動いてみて、最後に何とか帳尻を合わせる。言ってみれば土俵際のうっちゃりばかり」と振り返る。

バブル景気も末期の平成4年、当時の売上高と同じ3億円の融資を受け、工場を新設した。大きな投資を行ったものの、当時の主力商品はこんにゃくだけ。「このままではやっていけない」と、冬場の1/3にまで売り上げが落ち込む夏場にくずきりの製造を始めた。「地方はしがらみがあって新規参入が難しい」と大手を攻め、(株)イトーヨーカ堂からの受注を取り付けた。

思えばこれが転機となった。くずきりの材料問屋が、有名な洋菓子店のパティシエを紹介してくれた。「店のオリジナルゼリーを量産してくれないか」。店の設備だけでは千個単位での量産は難しい。かといって手の込んだゼリーを夏場だけ作ってくれるところはなかった。売り上げの谷間を埋めようとワラにもすがる思いで受注し、何とかしなければと必死に努力と改善、改良を重ねるうちに、納期、品質とも顧客に満足していただけるようになり、口コミで評判が広まった。今では生産品目は約300種類にまで増え、同社の売り上げの約半分を占める柱に成長した。

菓子ブランドを自ら立ち上げ

菓子づくりで得たノウハウを生かして、2003年には自前の菓子ブランドを立ち上げた。五郎島金時の規格外品をスイートポテトにして大阪の百貨店で売り出したところ、行列ができるほど評判になったことがきっかけだった。



形が悪く売り物にならない規格外品でも、味は同じで、農家の思いもたっぷりこもっている。これを仕入れれば、手間ひまかけておいしいものを作っても、手ごろな値段で販売できることから、客も店もメーカーも農家も喜ぶ。そこで、「4ツの笑顔プロジェクト」と名付け、五郎島金時のほか、能登大納言小豆や能登栗などを材料に、きんつばやプリンなどを商品化した。

昨年からは五郎島金時の入荷しないすき間を埋めるため、自前でサツマイモの無農薬栽培に取り組み、約10トンを収穫した。「安全でおいしい食べ物を供給するために労力を惜しみたくない」と、自ら社員とともに雑草とりやイモ洗いに汗を流す。

亡くして分かった父の存在感

創業社長である父親が亡くなって社長に就任したのは、平成8年のこと。入社以来、社長に代わって陣頭指揮を執ることも多く、実務は自分が取り仕切っていると感じていたが、いざバトンを受け取ると、相談する人もなく、最終的な判断を自分一人で下すことへのプレッシャーも重く肩にのしかかり、父の存在の大きさに改めて気付かされた。

ようやく事業が軌道に乗り出したのはここ数年だという。その要因の一つを、「何をもって社会に貢献するのか。会社の存在価値や使命を明確にすることができたから」と分析する。

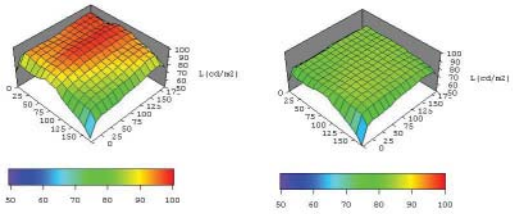
経営理念に掲げたオハラの使命は「安全でおいしい人と環境に優しい食品づくり」であり、「4ツの笑顔プロジェクト」はその具現化と言えるだろう。

「最近はようやく土俵の真ん中に近づいてきたかな」と自信をのぞかせる小原社長。豪快な上手投げが決まる日は間近だ。

県内では、産学官の連携によって
ニュービジネス創造を目指す動きが本格化しています。
ここでは、その実例に迫ります。

リアルな色をより正確に再現するモニターをプロ向けに商品化

(株)ナナオ
白山市下柏野町153番地
TEL 076-275-4121
http://www.eizo-nanao.com/



画面の輝度を3D表現したもの。補正前(左)は場所によってかなりのムラがあったが、補正後(右)はほぼ均等になった。

ナナオは昨年11月、高品質液晶モニター「ColorEdge　CG220」を発売した。この商品は、印刷や広告制作を手がける企業のほか、デザイナーやカメラマンなど、正確な色の表現を必要とするプロ向けのモニターで、従来の液晶モニターに比べ、より多彩な色合いやより細やかな色の階調を表現できるのが特徴となっている。

新商品誕生のきっかけとなったのは、同社が参画した「豊かさ創造研究開発プロジェクト」だった。同プロジェクトは、地域の社会的な問題解決や新産業創出につながる産学官の共同開発テーマの中から毎年一件を採択し、県が研究費を助成するもの。ナナオは平成14年度に採択された「実物の深い美、質感等を再現できる高品質画像・音声再生装置の開発と実用化」という研究テーマについて、北陸先端科学技術大学院大学の宮原誠教授をプロジェクトリーダーに、県工業試験場、サカ・テクノサイエンス（株）とともに3年にわたって共同研究に取り組み、その成果を新商品へとフィードバックした。



「Color Edge CG220」

ナナオが担当したのは、実物の美や質感を再現できるモニターの開発だった。

一般的な液晶モニターでは、撮影された写真や映像の色をそのまま正確に再現できているわけでなく、表示可能な色に置き換えているため、現物の色合いが損なわれているのが実状だ。そこで、ナナオでは、限りなくリアルに色合いを再現できれば、被写体が本来持つ美しさや質感を伝えられると考え、そのために基本的な表示性能一つ一つを見直し、向上させていく手法で開発に取り組んだ。

例えば、モニターが表現できる色域を拡大するため、バックライトやカラーフィルターを改良し、これまで正確に再現できなかったエメラルドグリーンや浅黄色の表示を可能にした。

また、独自のASIC（特定用途向けの集積回路）を開発し、より細やかな階調表現を実現。画面の周辺部と中央部で生じる色味や輝度の差も解消した。

今回のプロジェクトに携わったナナオの小野正貴情報メディアシステム開発部長は「技術的には当初の目標を達成できた」と自負し、「今後は一般ユーザー向けの機種にも同様の機能を搭載していきたい」とこれからの展開を見据えている。



開発に携った山本正人さん(左)と陶山記代さん。

BUSINESS FRONTIER

ビジネス・フロンティアに進路を取れ!

ビジネスチャンスの拡大、逆境をバネにランクアップ･･･
さまざまな目的に向け、販路開拓に乗り出した
企業の挑戦を紹介します。

10ミクロンのゴミを取り除く濾過装置を開発

各種工作機械・産業機械などの製造を手がける西野製作所では平成16年、切削液ろ過装置「PON（ポン）25」を開発した。今後、日本全国の機械加工業者らに販路を拡大していく構えだ。

切削液とは、金属を加工するときに加工物と刃物の滑りをよくする液体のこと。切削液中に金属のスラッジ（削りくず）があると、加工する際に傷がつくため、定期的にフィルターでろ過する。しかし、従来のろ過装置ではスラッジをすべて取り除くことができないため、汚れたら液ごと産業廃棄物として処理してきた。

同社が開発したPON25は、高性能フィルターを組み込むことで、わずか10ミクロンの大きさのスラッジまで除去が可能。切削液は再利用できるほか、ランニングコストの減少が期待でき、廃棄物の処理費も必要ない。

開発のきっかけは平成15年、大手機械メーカーから「スラッジをきれいに除去できるろ過装置を製造できないか」と相談を受けたことだった。常々、「下請けで部品や機械を製造するだけでなく、自社製品も開発したい」と考えていた西野十治社長は、高性能フィルターを製造する企業と技術提携し、全く新しいろ過装置を開発することとした。

新開発されたフィルターは、遠心力を利用してスラッジと液体を分離。細かい網目でゴミを取る従来のフィルターとは違い、部品を交換する必要がない。

平成16年8月には第1号機を出荷。今年5月には、平成17年度石川ブランド優秀新商品の認定も受けた。

西野社長は、「従来はリピーターや紹介されたお客様が中心であったが、今後はホームページを活用し、日本全国の新しいお客様にもアピールしていきたい」と販路拡大に意欲を燃やしている。

※ミクロン…1ミリメートルの1000分の1

このほか、石川ブランド認定製品は、
下記のホームページで紹介しています。
http://www.isico.or.jp/ib/



毎分40リットルの切削液をクリーニングできる。用途や使用する状況に応じたカスタマイズが可能。

(株)西野製作所

DATA
(本社)
金沢市北安江3丁目8番5号
TEL　076-261-6188
FAX　076-233-3935
(かほく工場)
かほく市浜北イ50番地
TEL　076-283-3202
FAX　076-283-5115
http://www.nishino-ss.co.jp/

Event News

首都圏での展示商談会の参加企業を募集！



平成17年度ISHI-BRAマーケットプレイス

ISICOでは、販路開拓支援の一環として、平成18年2月に東京で開催される「ISHI-BRAマーケットプレイス」の出展企業を募集しています。

県内の中小企業が開発した製品を、首都圏の大手百貨店や小売店のバイヤーなどにアピールし、販路開拓を目指します。ふるってご参加ください。

対象 … 原則として過去5年以内に開発した新製品などで、生活者向け製品および加工食品（生鮮食品は除く）
参加費 … 2万円

●応募締切　平成17年8月8日(月)
●開催日時　平成18年2月2日(木)･3日(金)
●開催場所　東京都立産業貿易センター浜松町館(東京都港区海岸1-7-8)

【お問い合わせ】
(財)石川県産業創出支援機構　産業振興部販路開拓課　TEL　076-267-1140

申込書は、ISICOにお申し出いただくか、ホームページ
(http://www.isico.or.jp/adminfo/h17ishibrambosyu.htm) からダウンロードしてください。

CHALLENGE
21世紀のチャレンジ
ベンチャースピリットに触れる

産業構造の高度化、急速な技術革新が進む中にあって、企業にとってはビジネスチャンス獲得のために新たなチャレンジが求められています。その中で、独自の取り組みで工夫を見せ伸びゆく2社を紹介します。

新分野

スピード感と責任で顧客の要望に応える
(株)アイ・ツー



■ 所在地　金沢市鞍月2丁目1番地
石川県IT総合人材育成センター4F
TEL　076-268-4161
■ 代表者　松崎　秀規
■ 設　立　平成13年10月
■ 資本金　1,000万円
■ 従業員数　10名
■ 事業内容
コンピュータネットワークに関するコンサルティング、コンピュータネットワークの管理・運用、コンピュータプログラムの企画・開発、ネットワークコンテンツの編集・デザイン
●http://www.i2-jp.com/

平成13年の創業以来、順調に売上を伸ばしているベンチャー企業アイ・ツー。テレビ局のコンピュータネットワークに関するコンサルティングをきっかけに急成長を遂げ、わずか10名の社員で年150%の増収・増益を生み出している。

「当社のモットーはお客様のニーズに対し、スピード感と責任を持って対応すること。ありきたりな言葉かもしれないが、これが急成長を支えている」とその成長の秘訣を松崎秀規社長(写真)は語る。

テレビ局の全社システムを構築した際には、サーバの移転から基幹システムの開発、社内LANの導入などのソリューションをたった10名の社員だけで手がけた。

また、テレビ局という特殊な分野において、自社がノウハウを持っていない面については、パートナー企業との連携でやり遂げた。

一度仕事を引き受けたら、顧客と最後までとことん付き合うアイ・ツーの姿勢をここからもうかがうことができる。

第2の創業期と位置づけた今期からは、大手人材派遣会社の全社システムの構築に始まり、企業プロモーションからマーケティングに至るまで、広範囲にわたりクライアントをサポートするビジネスを展開している。

ITベンチャー

オリジナルソフトを軸に躍進
北陸大同産業(株)



■ 所在地　本社：金沢市黒田1丁目20番地3
TEL 076-240-6771
PC事業部：金沢市鞍月2丁目1番地
石川県IT総合人材育成センター4F
TEL 076-267-7533
■ 代表者　裏野　実
■ 設立　昭和62年
■ 資本金　1,000万円
■ 従業員数　13名
■ 事業内容
業務用ソフトウエア、Webアプリケーション開発
●http://www.daidojp.com/

業務用ソフトウエアやアプリケーションの開発を手がける北陸大同産業は、独自の販売管理ソフト「もうかりまうす!」を主力商品に事業展開している。

これは、請求書や納品書を簡単に発行でき、見積りから在庫状況まで、数字を羅列するだけではないビジュアル重視のインターフェースが好評だ。

もともと、同社は地元ユーザーを対象にMS-DOS版の販売管理ソフトを個別に受託し、開発・販売していたが、プラットフォームがWindowsに移行される平成5年、全国初のWindows版業務系のパッケージソフトウエアとして全国展開した。マウスひとつで操作できる手軽さも受け、ソフトだけで2,000本を販売。さらに、ノウハウをソフト開発企業にライセンシングし、POS端末などの外部機器やインターネット・携帯電話と連携できるアプリケーションへと成長させた。

そして、より多くの人に使ってもらえるように、パイロット版をホームページからフリーダウンロードできるようにした。カスタマイズしてもらうため、ソフト購入者にソースを公開。プログラミングができない企業にはカスタマイズを施すなど、ユーザー拡大を図っている。裏野実社長(写真)は、「今夏、営業マンの活動履歴と顧客情報を連携する機能を加えた最新版で、さらに販売増を狙う」と意欲を見せている。

ネット進出レポート

▶ ネット販売による販路開拓 ◀

ネット販売を行っている県内の意欲ある店舗を支援するため、
バーチャルショッピングモール「お店ばたけISHIKAWA」を開設しています。
ネットに進出し、さまざまな方法で販路開拓を行っている店舗を紹介します。



顧客に合わせたプリントをネットで実現

［Digital Print Shop ニュートン］
http://www.newton1997.com/

［P-ファクトリー］
http://www.p-factory.com/

デジタルカメラで撮影した画像をネットやメールで受け取ってプリントするサービスを提供しているホリ写真館では、通常のプリントに満足できない全国の写真愛好家に向け拡販している。

「ニュートン」と名付けられたそのサイトの特徴は、顧客の嗜好に合わせた仕上がりを実現するため、プリントの色味や雰囲気を5種類から選択可能であること。堀光治社長(写真右)と妻の由佐さん(写真左)は、「お客様が描くイメージに近いプリントが手軽にできるので、多くの方がリピーターになってくれている」と語る。

同時に、ポストカードなどのデザインを手がけるサイト「P-ファクトリー」も運営。世界に一つだけのオリジナルとして、ブライダル用としても人気だ。このようにネットできめ細やかなサービスを提供したことが評価され、今年4月には、経済産業省が主催する「IT経営戦略百選」に県内企業で唯一選ばれ、奨励賞に輝いた。

そもそも、同社がネットに進出したのは平成12年で、ISICOのネット支援セミナー「バーチャルショップ道場」を受講。その後、ISICOのバーチャルショップ「お店ばたけ」に出店し、ホームページドクターの助言を受けながらサイトを改善した結果、ネットの売上げが全体の4分の1を占めるまでに成長した。

今後も写真に音楽と字幕を付けたフォトムービーを軸に、さらなるサービスの向上を図っていく。

ホリ写真館
能美市辰口町175番地
TEL 0761-51-2106



多様化する顧客に「通販ブログ」で情報発信

［オモチャのとらや］
http://www.toy-toraya.com/

ホームページで豊富な種類と量の玩具を販売するオモチャのとらやは、全国のファンから注目を集めている。

ホームページでは、目的の玩具を探しやすいようにカテゴリー別に分類。伊藤秀敏社長(写真左)は「このような分かりやすさが好評で、これまで主流だった20～30代の男性の方々だけでなく、女性のお客様も増加しており、全国から多くの注文を受けることにつながっている」と語る。

ネットに進出したのは平成10年。売り上げ減少に歯止めをかけると同時に、増え過ぎた在庫の処分が目的だった。サイト構築は、伊藤社長の弟でパソコンが趣味の能典さん(写真右)が担当。開設後わずか1週間で注文が入った。近ごろは「仮面ライダー」のSIC(Super Imaginative Chogokin)のフィギュアから、女性に人気の人形「ブライス」、話題の「たまごっちプラス」まで、世代や性別を超えて支持され、親子の会話が広がる玩具を取りそろえ、ユーザーの多様化に対処している。顧客の顔が見えない通販でも、店舗と変わらず丁寧に対応。また、検索エンジンの最適化(SEO対策)で上位にヒットされるよう工夫した結果、今ではネットで全体の約3割の売り上げを占めるまでに成長した。現在、ネット業界で注目されている「通販ブログ」にも早くから積極的に取り組み、実績をあげている。今後は、多様化する顧客に対応するため、RSSで最新情報を「通販ブログ」から発信していく構えだ。

オモチャのとらや
七尾市袖ヶ江町8-2-7
TEL 0767-52-4542

入居企業ファイル
Tenant file

ベンチャー企業やSOHOなどを支援するため、
フロンティアラボ、クリエイトラボ、SOHOクリエーションオフィス、
石川県ビジネスサポートセンターといった
低料金で利用できる事業スペースを提供しています。
その入居企業の中から、独自の取り組みを見せる2社を紹介します。

フロンティアラボ

㈱COM-ONE　国際的なソフトウエア研究開発組織を目指して



能美市旭台2丁目5番地1
いしかわフロンティアラボ
TEL 0761-51-7727
http://www.com-one.com/

JAVAなどのプログラミング言語を使った自治体向けの業務システムの開発などを請負うCOM-ONEは、英語でプログラミングされたソフトを日本語や中国語に対応させるなど、ソフトウエアを国際化する事業も展開している。

昨年12月には、(独)情報処理推進機構のソフトウエア開発プロジェクトに「データ解析環境のRの国際化」の事業が採択された。「R」は豊富な解析機能群を備え、利用者向けにグラフィカルなインターフェイスを併せ持つ、優れたオープンソースの統計解析ソフト。商圏調査や製品開発などに幅広く活用できる。元々英語環境で開発されたため、本プロジェクトで日本語をはじめ、中国語や韓国語などでも使えるようプログラムの基盤整備を進めている。完成後は、国内での普及を推進すると同時に、Rを活用した事業の展開を狙う。

米田稔社長(写真)は、起業後すぐにいしかわサイエンスパーク内のインキュベーション施設であるクリエイトラボに入居。北陸先端科学技術大学院大学と共同でオリジナルソフトウエアの開発などを行ってきた。仕事の増加に伴い、ソフトの翻訳に対応するため、外国人もメンバーに加え、スタッフを増員した。事務所が手狭になり始めた昨年12月、オフィススペースが約6倍のフロンティアラボに移転し、さらに開発体制の強化を図れる環境を整えた。米田社長は「世界に通用する自社ブランドのソフトウエアを開発したい」と目標を語っている。

SOHOクリエーションオフィス

D.Design My　講師経験を生かしてホームページを制作

飲食店や企業など、さまざまなホームページの企画・制作を手がけるD.Design Myの宮川剛代表（写真）は、パソコン講師も務めている。

同社を立ち上げたのは平成14年のこと。翌年、兄が経営する飲食店のホームページを制作した際に、見やすいデザインと親しみやすい文章が評判を呼び、ホームページ制作会社や飲食店などから新規のオファーが舞い込むようになった。

依頼を受けた際、ただ言われるままに制作するのではなく、クライアントがホームページを通して行いたいことを聞く。このとき、「講師時代の経験が生き、Webに詳しくないお客様にも、ホームページでできることとできないことを分かりやすく説明できた」という。

綿密に打ち合わせを行うなど、顧客としっかり信頼関係を築いた結果、多くのクライアントがリピーターになり、平成16年には売上が前年の約2倍となった。

「ホームページ制作は、ビジョンはあるが実際どうすればよいか分からないお客様の気持ちを、ホームページで広く伝えるための『夢を売る仕事』といえます。そのためには、双方の信頼関係は不可欠です。お客様のやりたいことをホームページで実現し、さらに事業を拡大させていきたい」と今後の展望を語っている。



金沢市鞍月2丁目1番地
TEL 076-268-1200
http://www.d-designmy.com/

TOPICS
イシコ・トピックス

最新の技術や製品を紹介
第18回石川県中小企業技術交流展

ISICOは5月19日（木）から3日間、県内の中小企業の受注機会拡大を図るため、県産業展示館2号館で「第18回石川県中小企業技術交流展」を開催し、約65,000人が来場した。今回は、過去5年間では最多の69社6組合・グループが、個々の技術を生かした製品や部分組立品、部品、素形材などを一堂に展示した。

また、ISICOが発注開拓業務を行っている中で、県外発注企業から特に中国進出企業に対する問い合わせが多いため、昨年に引き続き、中国へ工場進出している県内中小企業の特別コーナーを設けた。

さらに、独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA/東京都）が特別出品し、宇宙航空分野での産学官連携やJAXAの知的財産活用を呼びかけた。

期間中、県産業展示館1号館の「e-messe kanazawa 2005」ではISICOがSOHO、韓国交流ブースを開設し、SOHOクリエーションオフィスの入居企業などが事業内容などをプレゼンテーションした。







写真上／県内の中小企業に製品開発力や加工技術力をアピールした。

写真中／県外発注企業の担当者らが足を止め、独自の技術力に目を見張った。

写真下／e-messeにISICOが開設したSOHOのプレゼンテーションコーナー。

県外発注企業がビジネスパートナーを探して来県
石川県企業交流懇談会



県内外の企業が今後の取引の可能性を探った。

石川県とISICOは5月19日（木）・20日（金）、新たな受注獲得を目指し「石川県企業交流懇談会」を開催し、県外大手・中堅発注企業33社の役員、発注担当部課長34名が石川県を訪れた。

一行は19日（木）、県産業展示館2号館でISICOの斉藤副理事長から歓迎のあいさつを受けた後、「第18回石川県中小企業技術交流展」「第43回機械工業見本市金沢」「e-messe kanazawa 2005」を視察。その後、市内のホテルで県内受注企業93社102名、県関係者と情報交換の場を持った。

20日（金）には、県外発注企業28社が県内受注企業62社を訪問し、工場の視察や商談を行った。ISICOでは、県内受注企業の新規取引に結びつくよう、積極的にフォローを行っている。

ベンチャー企業の連係を促進
「ISICOクラブ」発足

ISICOでは、県内のベンチャー企業の成長を促進する目的で「ISICOクラブ」を設立した。7月7日（木）には、設立記念講演会を金沢ニューグランドホテルで開催し、会員企業の経営者ら約60人が参加した。

当日は、（株）東芝執行役専務の米澤敏夫氏が「再生から創造へ―TMDの事例に観る」と題して講演。経営改善への取り組みや従業員との会話の大切さについて話した。その後、交流会も開かれ、ISICO理事長の谷本正憲知事があいさつした。

ISICOクラブにはIT関連企業やリサイクル企業など31社が参加。サポートメンバーとして県内の上場企業や北陸先端科学技術大学院大学、金沢大学、金沢工業大学、石川県立大学の教授らが加わる。今後、講演会や情報交流会の開催、産業支援施設や大学への訪問を通して、ビジネスチャンスの拡大に向け、連携を図っていく。



（株）東芝の米澤敏夫氏が記念講演した。

ISICOでは、県内の中小・ベンチャー企業の活性化、
産学官連携の推進のため、さまざまな取り組みを行っています。
その様子をダイジェストでどうぞ！

オフィスを公開、2人の採用が決定

いしかわサイエンスパークベンチャー企業合同説明会に9社が参加



フロンティアラボに入居する企業を見学。参加者は班に分かれて、企業の現場説明を聞いた。

いしかわサイエンスパーク(ISP)に入居するベンチャー企業などの合同説明会が今年6月3日(金)、ISP内の石川ハイテク交流センターで開催された。当日は一般求職者14人、学生38人の総勢52人が参加し、企業担当者11人の話を熱心に聞きながら、就職内定へと意欲を燃やしていた。

企業が個別に自社のプレゼンテーションを行っただけでなく、実際に働いているオフィスも紹介。学生たちは普段目にしない仕事の「現場」を興味深く見学した。

この説明会で、(株)センサは2人の採用を決めた。松井和幸社長は、「企業にとって優秀な人材の確保はとても大きな課題であり、今後もこのような雇用の場を設けてほしい」と話した。また、4日(土)にはISP内の施設が公開された。

「愛・地球博」で使われたガラスオルゴールを製作

(株)サワヤ

照明器具の販売や産業廃棄物の処理などを手がけるサワヤは、今年3月から開かれている2005年日本国際博覧会「愛・地球博」(愛知県長久手町・瀬戸市)の開会式で、皇太子さまが自ら演奏されたリサイクルガラス製の地球型オルゴールと司会用テーブルを製作し、話題を集めた。

サワヤは平成12年、従来は埋め立て処分していた蛍光灯をリサイクルガラスとして製品化。プレートなどのオリジナルエコ商品を作り販売している。エコ製品の「環境展」への出展などが環境保全をテーマとする万博協会の目に留まり、リサイクルガラスの品質の高さが評価され、受注に結びついた。

サワヤでは、今後もエコ商品を通して廃蛍光灯の適正処理、リサイクルの必要性を説くと同時に、自社製品のアピールのため、ホームページに製品を掲載するなど情報を充実させる構えだ。





写真上／地球をかたどったガラスオルゴール。
写真左／司会者用に製作されたガラステーブル。

商工労働部部長に土肥氏、次長に津梅氏

石川県人事

石川県の平成17年度人事異動で、商工労働部部長に土肥淳一氏（写真左）が就任した。また、商工労働部次長（兼企画調整室長兼中小企業再生・事業転換支援対策室長）には津梅幸雄氏（写真右）が就任した。





FINANCE

経営の安定や積極的な事業展開を
支援する融資・助成制度のご紹介です。

● 平成17年度、石川県産業創出支援機構では、以下の貸付・貸与事業を実施します。

設備資金貸付事業、設備貸与事業、産学・産業間連携等設備貸与事業

(財)石川県産業創出支援機構　経営支援部設備資金課　TEL **076-267-1174**

	設備資金貸付	設備貸与（割賦・リース）	産学・産業間連携等設備貸与（割賦）
内容	創業・経営基盤の強化に必要な設備資金の1/2以内を長期・無利子で貸付 （中古設備可）	創業・経営基盤の強化に必要な設備をISICOが代わって購入し、長期・低利で貸与（割賦またはリース） （中古設備可）	創業・経営基盤の強化に必要な設備をISICOが代わって購入し、長期・低利で貸与（割賦） （中古設備可） ※ただし、次のいずれかに該当する企業であること ● 産学・産業間連携事業の補助金を受けた企業 ● モノづくり再生支援プログラム対象企業 ● 経営革新支援法等承認企業 ● 地域貢献型企業
貸付限度額	50万円～4,000万円 （特例25万円～6,000万円）	100万円～6,000万円	100万円～6,000万円
利息	無利子	【割賦損料】 年2.75% 実質金利2.00～2.25% 【リース料】 月1.408%（7年） ～3.006%（3年）	【割賦損料】 年2.75% 実質金利2.00～2.25%
期間	7年以内 （うち据置期間半年または1年以内） ※保証人必要。貸付金額1,000万円超の場合、原則として物的担保が必要 ※県の制度金融との併用可能	【割賦】7年以内 （うち据置期間半年または1年以内） ※保証金10%（割賦制度）。原則として保証人のみ 【リース】3～7年 （設備引渡の翌月より、毎月自動振込） 【県の利子補給】 ● IT（情報技術）分 …… 0.75% ● 産学・産業間連携支援分 …… 0.75% ● 一般分 …… 0.50% ※県のほか、市町村によりさらに利子補給がありますので、当機構へ相談・お問い合せください。	【割賦】 7年以内（うち据置期間半年または1年以内） ※保証金10%（割賦制度）。原則として保証人のみ 【県の利子補給】 ● IT（情報技術）分 …… 0.75% ● 産学・産業間連携支援分 …… 0.75% ● 一般分 …… 0.50% ※県のほか、市町村によりさらに利子補給がありますので、当機構へ相談・お問い合せください。

ISICOライブラリでは、ビジネスに役立つ書籍・ビデオ等を随時、整備しています。お気軽にお立ち寄り下さい。

■書籍情報

「インターネット白書」「科学技術白書」「環境白書」「中小企業白書」「情報通信白書」の各最新版を整備しました。閲覧ができますので、是非ご活用下さい！

■ビデオ情報

ISO14000シリーズは、昨年11月にIS（国際規格）化、12月にJIS化され、1996年版の規格を認証登録している組織は、改訂版での更新審査を受けないと、登録認証が無効になります。同規格を更新される方、新規登録を目指す方へ右記ビデオソフトを整備しました。是非ご活用下さい！



ISO14000s（2004年改訂版）の実際（全3巻）
1）環境マネジメントシステムの全体像と環境影響評価
2）環境マネジメントシステムのPDCA・計画と実施
3）環境マネジメントシステムの
PDCA：点検とマネジメントレビュー

人材投資促進税制のご案内

経済産業省では、今年4月から、人材育成に積極的に取り組む企業について、教育訓練費の一定割合を法人税額から控除する制度を創設しました。具体的には、教育訓練費を前2事業年度の平均額より増加させた企業について、その増加額の25%に相当する金額を当期の法人税額から控除するものです。中小企業についてはさらに特例があります。詳しくは下記のホームページをご参照ください。

http://www.meti.go.jp/policy/jinzai_seisaku/jinzaitoushi_zeisei.htm

いしかわクリエイトラボ入居者募集

いしかわサイエンスパーク内のインキュベート施設「いしかわクリエイトラボ」では、現在、入居企業を以下の通り募集しています。

■募集区画
・50㎡×5区画(50㎡ブースの25㎡への分割可)

■応募資格
(1)インキュベータ
●新分野への進出、技術開発など、創造的企業活動を行う中小企業
●独自の事務所・研究室が持てない小規模企業
●創業まもない中小企業、これから起業を目指す意欲ある方
(2)レンタル・ラボ
●研究開発に取り組むすべての企業

■利用料金
●賃貸料
【インキュベータ】
1㎡あたり2,000円／月
【レンタル・ラボ】
1㎡あたり3,000円／月
●共益費　1㎡あたり500円／月
●保証金　月額賃貸料の2カ月相当

■利用期間
原則3年以内
（必要な場合だけ2年延長可）

■入居者特典
●高速インターネット完備
(100Mbps)常時接続
●24時間365日利用可能
●無料駐車場
●北陸先端科学技術大学院大学との共同研究の場合は、大学の設備も一部利用可能

【お問い合わせ】
(財)石川県産業創出支援機構
サイエンスパークオフィス
TEL 0761-51-0122

石川県産業大学講座

開講のお知らせ

付加価値の高い技術力や商品を生み出すにはどうしたらいいか。また、マーケットの将来性とそれに向けた経営戦略をどう描くのか。こういったテーマに対し、ISICOでは「石川県産業大学講座」を開講して、人材の育成を図っています。ぜひ、ご利用ください。

技術セミナー

機械・金属技術

- 7月 ■音源探査と騒音対策事例（20日）
- 7月 ■表面処理技術の基礎と応用（26日）
- 9月 ■医療用チタン材料の加工技術
- 10月 ■ロボットの開発基盤となるソフトウエア上の基盤整備について
- 10月 ■医療分野におけるレーザの活用とその効果
- 10月 ■製品設計への具体的なCAEの活用事例
- 11月 ■高出力半導体レーザとその応用技術
- 11月 ■熱処理に関するシミュレーション技術の応用と品質管理について
- 11月 ■精密測定の実践技術
- 1月 ■機械・構造物の破面観察とその解析方法について
- 2月 ■品質工学コース（16、17日）

電子・情報技術

- 9月 ■高速ディジタル信号の測定・品質評価の基礎
- 10月 ■加速試験と信頼性へのガイダンス
- 10月 ■ユーザ中心のバリア解決型システム構築への挑戦
- 10月 ■鉛フリーはんだの最新動向について
- 10月 ■ICタグ利用技術
- 10月 ■パソコンによるデータ収録システム
- 10月 ■鉛フリーはんだソルダリング技術（25、26、27日）
- 11月 ■電安法技術基準遵守のための自主検査に関するセミナー
- 11月 ■便利な無線LANによる安全なネットワーク構築法
- 12月 ■ホームページとブログそしてメールマガジンの効果的活用法
- 12月 ■マイクロフォーカスX線TV・CTによる製品内部検

繊維・染色・デザイン技術

- 7月 ■最新トレンドカラーコーディネート（8日）
- 8月 ■ITを活用した繊維製品のモノづくり技術について（3日）
- 9月 ■ジオテキスタイル製品の展望（6日）
- 9月 ■食器洗浄機対応漆器の開発
- 9月 ■シクロデキストリンの用途展開について
- 10月 ■成形不良の原因と対策
- 11月 ■高強度ポリエステル繊維の開発とその用途
- 11月 ■IT技術分野へ活用する繊維製品の開発について
- 11月 ■「溶融紡糸法」によるセルロース系新規繊維の開発について―環境にやさしい新世代繊維の創出―
- 11月 ■生分解性プラスチックの現状と展望
- 11月 ■介護福祉分野の繊維製品開発の動向について
- 12月 ■伝統工芸技術を活かした新製品の開発

化学・食品・九谷焼技術

- 7月 ■RoHS指令対応［1］（13日）
- 7月 ■珪藻土壁装材の製品化について（21日）
- 7月 ■RoHS指令対応［2］（27日）
- 8月 ■RoHS指令対応［3］（10日）
- 10月 ■九谷焼技術について
- 10月 ■食品の機能性材料Ⅰ
- 1月 ■珪藻土など多孔質材料を用いた脱硫触媒の開発
- 1月 ■食品の機能性材料Ⅱ
- 1月 ■ナノスケール観察における電子顕微鏡の活用法について
- 2月 ■衛生管理技術3（食中毒事例の紹介）

その他

- 8月 ■FPGA 設計（31日）
- 9月 ■清酒醸造微生物学実験Ⅱ（6・7・9日）

経営セミナー

経営革新

- 7月 ■マネジメント戦略セミナー（26日）
- 9月 ■中小企業パワーアップセミナー

起業化支援

- 8月 ■起業化支援セミナー（4、11、25日）
- 10月 ■ビジネスプラン作成講座（2日間コース）

マーケティング

- 7月 ■バーチャルショップ道場（14、22、25日）
- 8月 ■バーチャルショップ道場（5、19日）
- 10月 ■新分野（成長産業）進出セミナー
- 10月 ■マーケティング実践塾（10～11月/全5回）
- 11月 ■マーケティング戦略セミナー

SOHO支援

- 7月 ■プライバシーマーク入門講座（13、27日）
- 7月 ■ビジネススキル養成講座（4、11、25日）
- 8月 ■ビジネススキル養成講座（1日）

環境・安全等対策関連講習会

- 8月 ■環境管理・監査制度対応講習会（3日）
- 10月 ■廃棄物処理法対応講習会及び建設リサイクル法対応講習会（11日）

日程や会場のお問い合わせ、お申し込みは、
（財）石川県産業創出支援機構
TEL.076-267-1001

このほかのイベント、セミナー情報
▼
DGnet（http://www.isico.or.jp）を
ご覧ください。

財団法人
石川県産業創出支援機構
Ishikawa Sunrise Industries Creation Organization

●お問い合わせは
TEL:076（267）1001
FAX:076（268）4911
〒920-8203 石川県金沢市鞍月2丁目20番地
石川県地場産業振興センター新館
URL http://www.isico.or.jp
E-mail info@isico.or.jp

編集後記

今回から読者層を広げ、より多くの方々にISICOの事業・企業との連携等、紹介いたします。今年度もISICOは、皆様のニーズに合った事業の遂行を心掛け、新体制のもと、スタッフ全員が全力で対応いたします。今後とも、気軽にお問い合わせ下さい。

［発行月］2005年7月（年4回発行） ［発行所］財団法人 石川県産業創出支援機構 ［編集協力］ライターハウス／金沢市問屋町1丁目75番地